

ブラツクアウト

北海道全域停電、 そのとき酪農地帯では

まごめ 編集部

2018年9月6日未明に発生した

北海道胆振^{いぶり}東部地震。

震源に近い厚真町では震度7を記録し、土砂崩れによる犠牲者が多数出た。

北海道東部の酪農地帯では、

地震の揺れは大きくなかったが、

全道停電により搾乳・集乳ができず、

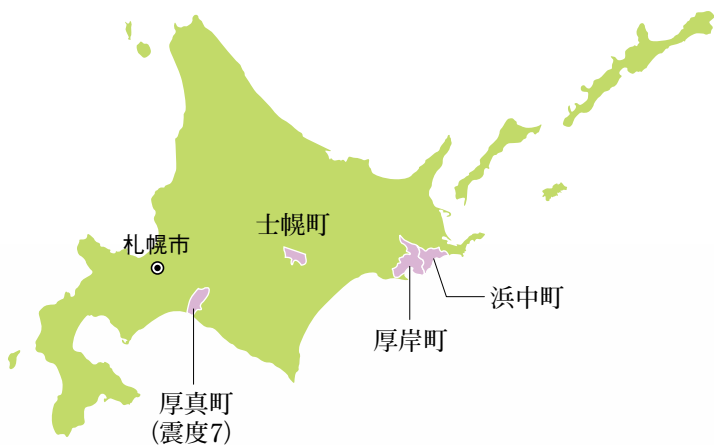
出荷できない生乳が廃棄処分になったうえ、

多数の牛に乳房炎の被害が発生した。

酪農家や地元の農協職員は、

この停電被害にどう対応し、何を思ったのか。

現地を訪ねてみた――。



これは…

乳搾りができないぞ!

あっけし
厚岸町の酪農家・石澤元勝さん(69歳)に聞く

まとめ=編集部 イラスト=河野やし

起きてテレビをついたら、電源が入らない。ラジオを探したら、こっちもつかない! 電池切れだった。



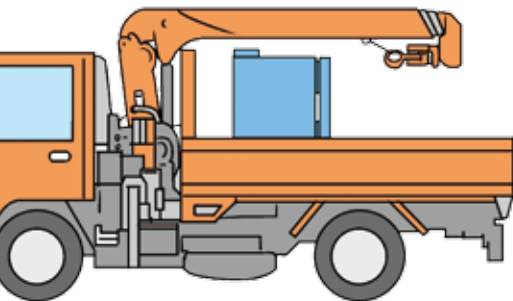
電池を買いに、近くのセブンイレブン(24時間営業)へ。蓄電していた電気があったらしく営業していた。



9月6日

私は、いつも午前3時半に目覚ましをかける。地震発生は3時7~8分とか。気づいたものの、しばらくは布団の中。

ラジオをつけると、全道が停電とか。これでは搾乳できないと思った私は、農協(JA釧路太田)に発電機があることを思い出し、参事(農協の事務方トップ)に電話した。参事も営農畜産課長も、前日に会議があった釧路のホテルに宿泊中とのこと。ここから釧路までは50km近くある。それで、組合長や営農畜産課の若い職員にも電話した。



電話口ではみんな寝ぼけた様子だった。しかし、やることは素早い。8時過ぎに農協に行くと、すでに対策会議を終え、農協の男性職員と電気屋さんが発電機を持ってこれから酪農家を回るとのこと。

